

カンボジアを調べよう！		岡澤 貴雅 横浜市立上飯田中学校
担当教科：社会	実践教科：社会	時間数： 時間
対象学年：2年生・教職員	対象人数：2年生117名・教職員25名	

はじめに

本校の在籍生徒の約3割は外国籍の生徒である。外国につながる生徒まで入れると約4割を超える。国籍もベトナム・中国・カンボジア・タイ・ラオス・フィリピンなど多岐にわたるがアジアの国が多いのが特徴である。実情としては、来日して間もない生徒もいるが、日本生まれの外国籍の生徒の方が多い。日本生まれの外国籍の生徒は、家での生活は少しの日本語と母国語、学校では日本語を話していることが多い。外国籍の生徒は、途中で来日した生徒に比べ、母国に対するアイデンティティーが低いと思われる。このような環境の中で、外国籍の生徒が自分の国に誇りを持つと同時に、(主に日本人の生徒に対しては)他国の文化を受け入れる態度を養うことが本カリキュラムの目的である。

指導案

実践の目的

- ・世界の国々の地理的事象をもとにして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みとのかかわりに着目して多面的・多角的に考察する。
- ・さまざまな統計資料から調べる世界の国々の地理的事象に関する情報を読み取り、整理・活用するとともに調べたことについて、視覚的な方法を用いて簡潔にわかりやすくまとめることができる。
- ・都道府県の調査の学習成果を生かしながら、統計資料の収集・分析や調査活動、比較や結びつきを明確にすることを通して、世界の国々の地域的特色を多面的に理解する。
- ・自分の母国に誇りを持ち、発表する態度を養う。
- ・他国の文化を尊重するとともに、自分の母国と比較し差異を認める態度を養う。
- ・開発途上国に対する支援について考え、実践できる態度を養う。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	テーマ ・カンボジアってどんな国 ねらい ・カンボジアの自分のイメージをつくる	・カンボジアの位置の確認 ・物売りの子どもの写真を見せ、自分が遭遇したら買うかどうかを考える。 ・カンボジアで撮影した写真を30枚ほど見せ、生徒自身のカンボジアのイメージをつくる。 自分のイメージをワークシートに記入	・Google Earth ・現地で撮影した写真 ・ワークシート

2	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアってどんな国ねらい ・統計資料からカンボジアを客観的に捉えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料からカンボジアを調べ、ノートプリントに記入する。 (人口・面積・人口密度・言語・通貨・GDP・産業別人口・輸出入品目など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書会社HP ・地図帳 ・ノートプリント
3	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地雷・不発弾の処理ねらい ・地雷・不発弾の処理を知りそれにともなう啓発活動に気づかせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・(地雷の)「どくろマーク」の看板をコピーした物を見せて、何を意味するかを考える。 ・地雷の被害者について知る。 ・不発弾の被害について知る。 ・「JMAS(日本地雷処理を支援する会)」が日本の支援で成り立っている団体だと言うことを知る。 ・JMASが行っている「啓発」の場面の写真を見せ、何をしているところかを考える。 ・なぜ「啓発」が必要かを考える。 ・なぜ地雷や不発弾がカンボジアにあるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・地雷の看板 ・地雷被害者の写真 ・JMASのHP ・現地で撮影した写真
4 5	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアの歴史ねらい ・内戦が続いた結果、復興が遅れていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアの人口ピラミッドを見て気づくことを考える。 ・ノートプリントに沿って、カンボジアの歴史を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアの人口ピラミッド ・ノートプリント
6	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアの教育ねらい ・ポル・ポト時代に知識人層が虐殺されたことが復興の遅れている原因になっていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに将来の夢を書く。 ・カンボジア日本友好学園 カンボジア日本友好学園の学生の夢と自分の夢を比較する ・プレイヴェーン教員養成校 なぜ、カンボジアの教員養成校に日本人がいるのかを考える。 ・IKTT(クメール伝統織物研究所) なぜ、カンボジアで日本人が技術指導しているのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地で撮影した写真 ・ワークシート
7	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援と教育ねらい ・教育を支援することが復興につながることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで授業で扱った「JMAS」「カンボジア日本友好学園」「プレイヴェーン教員養成校」「IKTT」に共通していることは何か。 ・国民が教育を受けなかったらどのような国になるかを考えワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地で撮影した写真 ・ワークシート ・ワークシート ・ノートプリント

8	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援とは？ ねらい ・支援とは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアに支援するとしたらどのような支援ができるかを考える。 ・現地で撮影した写真（未開封はこの状態の電子ピアノ、山積みになされたPC）を見せ、再びどのような支援ができるかをグループで討議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地で撮影した写真 ・ワークシート ・C-Rights（国際子ども権利センター）発行のトラベラーガイド
9	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ねらい ・今までの学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートプリントでこれまでの学習を振り返る。 ・カンボジアの学習についての感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートプリント ・ワークシート
2月提出	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアのレポートの作成 	

授業の詳細

1時限目：カンボジアってどんな国

- (1) 生徒に30枚程度の現地で撮影した写真を見せる。写真はカンボジアの街の様子やこれからの学習でキーになる写真を中心に見せ、「これはどういう意味なんだろうね？」と立て続けに疑問を投げかけるようにした。ねらいは、今回の授業で生徒が自分の中で写真を見ただけでカンボジアのイメージをつくることなので、写真を見せあまり解説を加えないように留意した。また、景観写真から地理的事象をとらえさせることにも留意した。
- (2) おみやげなどの物売りの子どもの写真を見せ、「あなたがカンボジアに旅行に行きます。小さい子どもが近づいてきてお土産を買ってといわれました。あなたは買いますか？」という質問をし、生徒に買うか買わないかとその理由を答えさせる。

生徒の反応

生徒は興味深そうに写真を見ていた。おみやげを売る子どもから買うかどうかについては、日本と違う光景にカルチャーショックを受けると予想していたが、「これってふつうじゃないの？」というベトナム籍・中国籍の生徒が数名いたのが驚きであった。

(2)の生徒の考え

「買う」と答えた生徒：77名

理由

- ・かわいそうだから（多数）
- ・体が細くあまり食事をしていなさそうだから
- ・少しだけでも幸せにしたい
- ・子どもを喜ばせるため
- ・募金として買う
- ・お金と一緒に夢と希望をあげる
- ・子どもが働かなくてはならないほどの経済状況だから

「買わない」と答えた生徒：21名

理由

- ・その子が売っている物を買ったら他の子からも買ってあげないといけなから（複数）
- ・小さい子にはかわいそうだけどもいらぬ物もあるから、アメとかをあげる
- ・売っているものが安全かどうかわからないから

生徒のカンボジアのイメージ

- ・貧しい（多数）
- ・小さい子が働いている
- ・戦争の後始末ができていない
- ・産業が発達していなさそう
- ・子どもが働いているのが不思議
- ・大人が親のいない子ども達を働かせて、その子ども達が大人になって同じことをする。
- ・（バイクが多く）空気が汚そう
- ・暑い国
- ・車を持っている人もいれば小さい子どもが働いている家もあり貧富の差が激しい
- ・ベトナムと同じだと思った（複数のベトナム籍）
- ・かわいそう（多数）
- ・観光地がいっぱいある
- ・危険
- ・日本車が多い
- ・本当にお金がないのかなって思った

2時限目：カンボジアってどんな国

カンボジアを主観ではなく客観的に捉えるため、教科書会社のホームページや地図帳の統計資料を利用した。首都・人口・面積・人口密度・GDP・言語・宗教・識字率・気候・通貨単位・産業別人口割合・輸出入品について調べ、各項目において日本と比較した。GDP・産業別人口割合から日本とは違い開発途上にある国であることをデータから読み取らせることをねらいとした。

【ノートプリント】

カンボジアの統計データ

	カンボジア	日本
首都	<u>プノンペン</u>	<u>東京</u>
人口	<u>1339</u> 万人	<u>12708</u> 万人
面積	<u>18</u> 万 km ²	<u>38</u> 万 km ²
人口密度	<u>74.4</u> 人/km ²	<u>334.4</u> 人/km ²
GDP	<u>9574</u> 百万ドル	<u>4909272</u> 百万ドル
おもな言語	<u>カンボジア</u> 語	日本語
おもな宗教	<u>仏教</u>	仏教、神道、キリスト教
識字率	<u>78.35</u> %	99.8 %
気候	<u>熱帯</u>	<u>温帯</u>
通貨単位	<u>リエル</u>	円

カンボジアの産業の産業別人口

	第一次産業 (農林水産業)	第二次産業 (鉱工業)	第三次産業 (サービス業)
日本	4.8%	26.1%	69.1%
カンボジア	<u>72.3</u> %	<u>8.54</u> %	<u>19.16</u> %

3時限目：地雷・不発弾の処理

- (1) 地雷や不発弾がある場所を示す看板を クメール語、 絵、 英語の順番で見せ、それぞれどう思ったかを書く。



- (2) なぜ、絵と言葉で書かれているかを考える。
識字率が低いため、様々な表記方法で注意を促していることに気づかせる。

- (3) 地雷の被害者の写真を見せ、持っている看板を読む。

地雷被害者の写真

Hello Sir / Madam
I am disable living with hope!
Hello, Sir, Madam My name is PHUNG. I am 46 Years old. I lost my leg in 1989 by land mine.
I have a wife and Five Children. I am a breadwinner, so it is very difficult for me because I have to feed my Family I pay for rent a house 25\$ and the School fee of my Children 20\$ every month. So I run a small business to Support my family, because I don't want to be a beggar. So if you want to help me please help me to buy a book from me or you can give me a little bit money.
Please help me and my Family have a better life. (I hope in advance) for your help I wish you good luck and health. 【看板の原文のまま記載】

地雷の被害者がいるのは事実だが、国中に地雷があるわけではないことにもふれる。

- (4) 不発弾被害の実例を読み、なぜ被害者が出ているのかを考える。
家計を助けるために不発弾を回収し、被害に遭っていることを知る。

事故の背景

被災者は妻と子供3人の5人家族で、耕地面積約1反歩(300平方メートル)の稲作農家でした。稲作だけでは一家が食べてゆくことが出来ないため、副業に不発弾を安く買い求め(1発500リエル(13円)くらい)その砲弾を解体して金属部と炸薬部に分類し、金属部はくず鉄業者に、炸薬は砕石業者又は花火業者に売り払い生計を立てていました。解体して売ると81mm迫撃砲弾1発で約5ドル~6ドルになります。事故にはこのような背景がありました。(JMASのHPより抜粋)

(5) JMASの啓発活動の写真を見せ、何をしているところかを考える。



不発弾の処理だけでなく、事故の未然防止の観点から子ども達への啓発活動を行っていることを知る。また、教育水準が低く識字率も低いことから、絵や写真を多用していることにも気づかせる。

生徒の反応

本校の地域性から、生徒たちは小学校の頃からインドシナ半島のことをよく勉強しているが、改めて、カンボジアの地雷・不発弾の現状は理解できたと思う。授業の中で「日本に不発弾はあるの?」という質問が出たのでその場でニュース検索をすると大阪で不発弾が発見され、自衛隊によって回収された記事が出てきた。生徒たちは、カンボジアが特殊ではないことが少しは理解できたのではないかと思う。

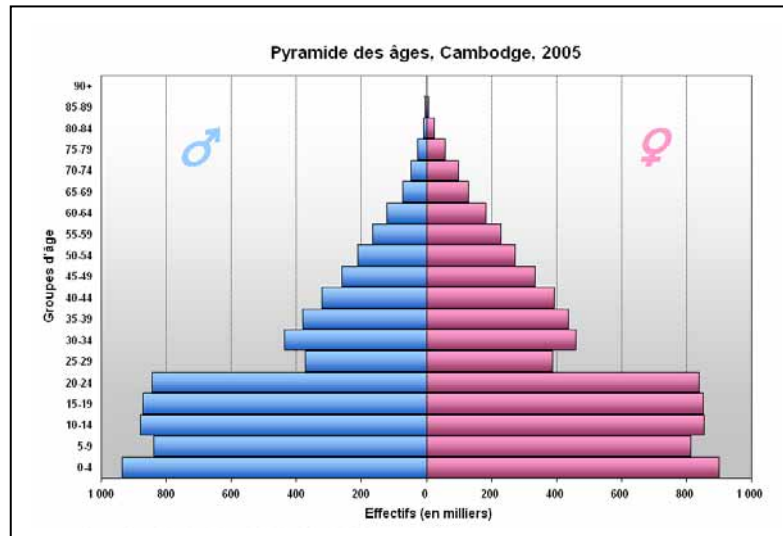
生徒の感想

- ・カンボジアには生きるために必死で働いている人がたくさんいることがわかった。
- ・カンボジアの人々がこの危険な環境の中で生きていくのがすごいと思いました。
- ・カンボジアの状況を見て、こうして暮らせるのがしあわせなんだなと思いました。何かカンボジアの人たちにできることがあるならしてあげたいと思いました。
- ・カンボジア人でもカンボジア語が読めないとは思わなかった。
- ・日本にも地雷があることがわかりました。

4・5時限目：カンボジアの歴史

(1) カンボジアの人口ピラミッドを見せ、35歳以上の人口が少ないことに着目させ、その理由を考える。

クメールルージュが政権を取った1975年に着目させる。



(2) ワークシートを利用して、カンボジアの歴史を知る。

ポル・ポト政権の史跡であるトゥールスレン虐殺博物館の写真を見せ、虐殺の事実やその政策に理解を深めた。

【ノートプリント】	
年代	カンボジアの動き
9～13世紀	(アンコール) 王朝
14世紀以降	タイさらにベトナムの攻撃により衰微
1884年	(フランス) 保護領カンボジア王国 = フランスの植民地
1941年～ 1945年	(日本) の植民地になる 日本の敗戦とともにフランス領にもどる
1953年	フランスから独立し(カンボジア王国) となる
1970年	ロン・ノルら反中親米派、クーデターによりシハヌーク政権打倒。王制廃しクメール共和国樹立。 親中共产勢力クメール・ルージュ(KR)との間で内戦。
1975年	KRが内戦に勝利し、民主カンボジア ((ポル・ポト)) 政権を樹立。 = (原始共産制社会) をめざす 同政権下で大量の自国民虐殺。 = 反抗勢力への徹底した弾圧 内戦が続く
1992年	(国連) カンボジア暫定統治機構(UNTAC)活動開始 各国が援助を行う

生徒の反応

歴史学習において、戦後史は未習のため東西冷戦やA A会議、共産主義についてなど背景にある事象を説明した。また、カンボジアの日本による植民地支配にも触れた。生徒はポル・ポトが政権をとった時期と人口ピラミッドで激減している年代の一致に気付きショックを受けているようだった。また、圧政によって受けた国民の被害にもショックを受けていた。

生徒の感想

- ・戦争や内戦によって、その国の人口構成が大きく変わることに驚いた。
- ・どんな政治であれ、国民を殺すのはおかしい。
- ・ポル・ポトは残酷な人だと思った。(多数)

6時限目：カンボジアの教育

- (1) ワークシートに将来の夢を書く。
- (2) カンボジア日本友好学園の学生の夢と自分の夢を比較する。
自分の書いたものと友好学園の生徒のものを比較し、その感想を書く。

	ノー チャンターくん
Age	20歳(高校3年生)
My hobby	英語と日本語の本を読むこと ニュースを聞くこと 料理
I like	サッカーや野球などのスポーツと勉強のための旅行
Favorite food	揚げ物、煮物
Favorite subject	英語、日本語、クメール語
My dream	政治家
because	国を発展させ、クメール人の生活水準をよりよくさせ、カンボジアに本当の経済発展をつくりたい
My treasure	家、故郷、そして自転車 たくさんの親せき
About Cambodia	カンボジアは発展途上国です。だから生活は少し厳しいと思います。しかし、私は美しいカンボジアに住んでとても幸せです。
About Japan	とても近代的な国。私はいつも日本人がどうやって国を発展させたかを勉強しています。そして日本人にとっても興味があります。

- (3) なぜ、カンボジアの教員養成校に日本人がいるのかを考える。
- (4) I K T Tの写真を見せ、なぜ、カンボジアで日本人が技術指導しているのかを考える。

生徒の反応

友好学園の生徒と自分の夢を比較し、友好学園の生徒が国のために働きたいなど、しっかりとした考えのもとに書かれていることのギャップに驚いていた。

生徒の今までの知識ではカンボジアに物やお金を送っているだけだったのが、日本人がカンボジアに行き、技術協力をしていることに驚いていた。プレイヴェーン教員養成校の小松さんやI K T Tの森本さんに会ってみたいという生徒も数人でてきた。

7時限目：支援と復興

- (1) 今まで授業で扱った「JMAS」「カンボジア日本友好学園」「プレイヴェーン教員養成校」「IKTT」に共通していることは何か。
教育を支援することが共通点であり、経済の発展、自立した国家の形成につながることを知る。
- (2) 国民が教育を受けなかったらどのような国になるかを考えワークシートに記入する。
教育が国を支える基盤になることに気づき、今後の学校生活や人生に活かせるように考える。

生徒の反応

教育が国の経済にかかわっていることをカンボジアを通してシミュレーションできたようだ。生徒の考えでは「犯罪が増える」「産業が発達しない」などひと通りの回答が出た。今後の学校生活に取り組む上での土台になったと応えた生徒もいた。また、経済の発展のためには教育を支援することが大切であることも逆説的に理解できたと思われる。

8時限目：支援とは？

- (1) カンボジアに支援するとしたらどのような支援ができるかを考える。
- (2) 現地で撮影した写真を見せ、再びどのような支援ができるかをグループで討議する。

支援品の未開封電子ピアノ



(プレイヴェーン教員養成校)

支援品のパソコン



(プレイヴェーン教員養成校)

生徒の反応

初めにどのような支援ができるか問うと「物を送る」「募金」などの意見が多かったが、現地での写真を見せると「発電の技術」「知識を教えるためにたくさんの人を送る」など変化してきた。C-Rights(国際子ども権利センター)のチャイルドセーフ・ネットワーク・キャンペーンにも触れ、生徒は「子どもたちが路上で売っている物をむやみに買わない」ことがわかり、今までの常識が覆されたようだ。どのような支援がカンボジアのためにな

チャイルドセーフトラベラーガイド

その2:

路上、ビーチ、寺院などで物売りをする子どもから買う前に、よく考えましょう。また物乞いをしている子どもや乳幼児をつれた親にお金をあげることはやめましょう。

私たちが物やお金をあげてしまうことで子どもが路上で働き続け、その結果危険な目にあうことにもつながります。本当に子どもを助けたいと思うなら、直接何かを与えるのではなく、子どもたちがより良い未来を送ることができるような活動にご支援ください。

(C-Rights ホームページより抜粋)

るのかを真剣に考えていた。

9時限目：まとめ

- (1) ワークシートでこれまでの学習を振り返る。
- (2) カンボジアの学習についての感想を書く。

【ワークシート】

(開発途上国) (先進国)
開発途上国を支援するのは(先進国)の責任
日本も戦後、他の国から援助を受けた
開発途上国を支援する組織:(JICA (国際協力機構)
(NGO (非政府組織)) など
日本政府の援助
(ODA (政府開発援助))による支援
道路や橋の建設などのインフラ整備
(教育)に力を入れている
なぜ?
【教育力を上げることが、その国の経済を活性化させ、自立した国家を築くことになるから】
支援について
先進国から上から目線の支援ではなく、(対等な立場)が重要
例:(フェアトレード)など
お互いにとって有益な関係になる

生徒の感想

- ・はじめ、地雷の写真・歴史を見たときそんなことがあったんだ・・・と悲しい気持ちになりました。子どもが物を売ってたら・・・という質問で、よく考えずに買うと答えたけど、本当にそれでいいの？ 平等な立場で考えているか？ と聞かれた時、言われてみたら上から目線だったかもしれないと思った。
- ・私はいつかNGOに関わり、少しでもカンボジアをよくしていきたいと思った。
- ・ストリートチルドレンのように路上で働く子どもにお金をあげたり、物を買ったりすることなどが、相手を少しでも助けることになると思っていたが逆効果で、むしろ国の発展を遅くしてしまっていることがわかった。支援って難しいですね。
- ・カンボジアは支えていけばなんとかなる国で、いつの日か自立すると思う。
- ・ベトナムにもそうゆう子(ストリートチルドレン)がたくさんいる。とにかく勉強ができないで仕事をしている子がいる。
- ・カンボジアは、授業前は危険なイメージがあったが、授業後はとても平和なイメージになった。

その後：レポート作成

学習の成果をレポートにまとめ提出。期限を1ヶ月程度と長く設定し、十分に調べ学習ができる時間を確保する。

その他の活動

- ・ 8月26日に職員研修会で「世界がもし100人の村だったら」を題材にしたワークショップを行ない、その後半部分でこの研修に参加した報告を行った。
- ・ 2月にJICA横浜より坂田氏を講師に招き「マラウイってどんな国？」というテーマで講演していただく予定である。本校はアジアには関係が深いですが、アフリカにはあまりない。そこで今回のカンボジア授業の延長として、アフリカの国を知る機会を設けた。

成果と課題

- ・ 今回の実践授業は、社会科の授業（地理的分野：地域の規模に応じた調査、世界の国々）に位置づけた。カリキュラムに組み込むことによって、国際理解教室が時間的に実践しやすくなることが実感できた。また、学校教育で授業を行うからには評価をしなくてはならないため、今後は評価の方法についても研究を深めたい。
- ・ 本校の生徒は小学校の時からインドシナ半島の国々についての学習をしており、実際に支援活動も行っていった。この実践授業を通して「支援」とは何かを考え、お互いが対等な立場でつきあうことが大切であることに変容していった。また、具体的な方法はイメージできていないようだが、今後深めていってもらいたいと思う。
- ・ カンボジアの復興を通して教育の重要性を再認識させることによって、生徒の今後の学校生活や人生に活かせるものになるのではと考える。

参考資料

- ・ 『社会科 中学生の地理 世界のなかの日本 初訂版』（帝国書院）
- ・ 『新編 中学校社会科地図 初訂版』（帝国書院）
- ・ 帝国書院HP <http://www.teikokushoin.co.jp>
- ・ JMAS（日本地雷処理を支援する会）HP <http://jmas-ngo.jp/ja/>
- ・ C-Rights（国際子ども権利センター）HP <http://www.c-rights.org/index.html>



（プレイヴェーン州にて）



（ネアックルン橋付近にて）